

古生物紹介

モササウルス(Mosasaurus)

爬虫類・有鱗目トカゲ亜目オオトカゲ上科モササウルス科
中生代白亜紀後期
ヨーロッパ、北アメリカ、日本など
全長12.5～18m



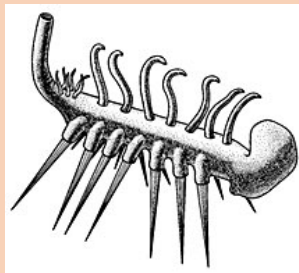
白亜紀の海のギャング

1770年代にオランダの採石場で頭骨が発見され、のちにオランダに攻め込んだフランス軍が戦利品として持ち帰り、パリ自然史博物館がワイン600本の賄賂と引き換えに入手したという逸話を持っている。イグアノドンやメガロサウルスよりも化石の発見が早く、最も初期に研究された巨大爬虫類となっている。如何にも強力そうな顎を持っているが、主な捕食方法は丸呑みであったことが内容物の化石から明らかになっている。2015年夏に公開された映画「ジュラシック・ワールド」での活躍は記憶に新しい。

コラム “ハルキゲニア” の復元画が変わる!?

カンブリア紀に生息していた奇妙な形態を持つ生物、「ハルキゲニア」の体の前後が、これまで考えられてきたものと逆であるとする論文が発表された。これに関する産経ニュース記事によると、これまで尾と考えられてきた部分を電子顕微鏡で観察したところ、一对の目と歯が確認されたことが報告されたようだ。一方、これまで頭部と考えられていた丸い部分は、実際は土に埋められたときに圧縮され流れ出た体液などによるものであったという。

またハルキゲニアの分類学的位置については、この発見で歯が見つかったことから、脱皮動物に含まれる可能性が高いという。脱皮動物は、昆虫・カニ・エビなどの節足動物をはじめ、緩歩動物(クマムシ)、有爪動物(カギムシ)などを含む分類群である。



参考・引用：産経ニュース 奇妙な古代生物「ハルキゲニア」の頭と尾は逆だった

部員紹介

北川 響 (きたがわ ひびき) 大阪市立大学理学部生物学科1回生

好きな恐竜:マイクロラプトル、ドロマエオサウルス

好きな動物:サメ、シャチ、ゴンドウクジラ

ひとこと:今の目標は難しめの生物の本読んで理解できるようにすること。コツコツ頑張ります。